

## 遺伝学会会員の意識調査アンケート報告

国内の殆どの学会において会員数の減少が学会運営における大きな問題となっており、日本遺伝学会におきましてこれまでいろいろな形で会員数の減少を食い止める策を講じてまいりましたが、なかなか目に見える成果に繋がられていませんでした。また、日本遺伝学会会員の年代別内訳を調べてみましたところ、30代前後の若手研究者の人数が極端に少なく、現状のままであれば会員数減少のスピードが今後さらに加速していくことが予想されました。会員数が大幅に減少すれば学会の運営方法を見直す必要性も出てくる可能性もあり、学会の主体である会員の皆様のご意見を汲み取りできる限り会員の皆様にとってより良い形での運営方針を検討したいと考え、今回のアンケートを実施するに至りました。せっかく皆様のご意見を伺う貴重な機会でもありましたので、関連する内容の質問を付け加えて実施させていただきました。

アンケートには269名の方がご回答下さりました。厳しいお言葉も含め、会員の皆様が日本遺伝学会をより良くしたいと頑張っていることが伝わるところご意見ばかりで、幹事一同心より感謝致しております。

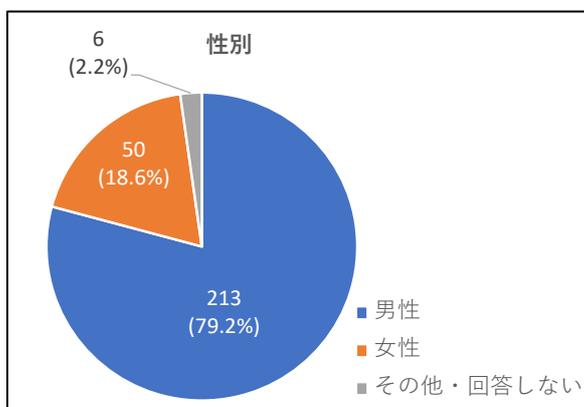
今回は、皆様にご回答いただいたアンケートの結果を取りまとめた報告をさせていただきますので、ご回答くださった方も未回答の方もご一読いただけますと幸いです。

### 以下、アンケート結果のまとめ

アンケート実施期間：2022年1月24日～3月4日

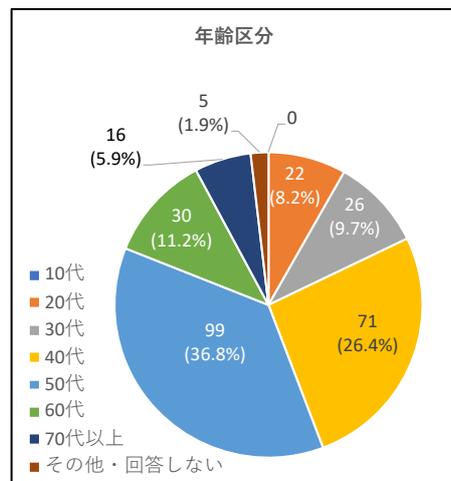
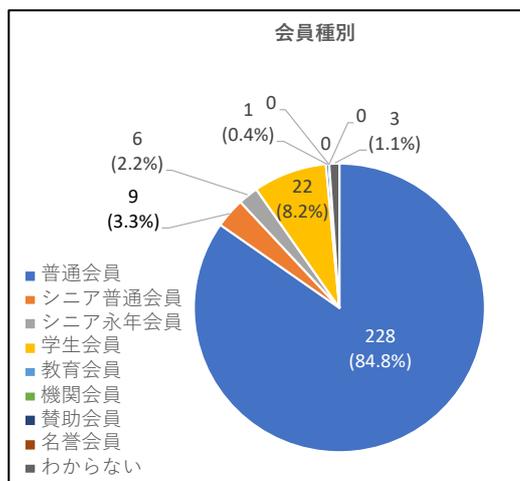
回答者数：269名

### 回答者の性別内訳



回答者の性比は学会員の男女比（男性78.8%、女性21.2%）とほぼ同じでした。

## 回答者の会員種別・年齢区分

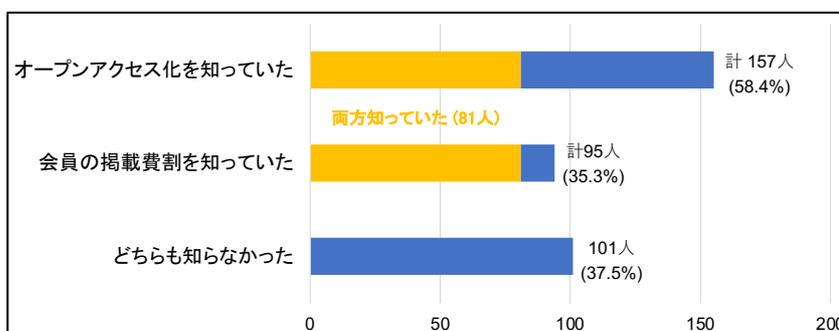


回答者の会員種別をみると、会員名簿では学生会員が 26.6%を締めており、会員全体からすると学生会員からの回答がやや少なかったことがわかります。回答者の年齢区分をみると、会員名簿の20代+30代会員の割合(21.9%+12.7%)を踏まえると、この年代からの回答がやや少ないという結果でした。

## ○日本遺伝学会誌 Genes & Genetic Systems (GGS) についての質問

日本遺伝学会が出版している GGS は歴史も古く伝統ある雑誌であり、品質を高めるための様々な取り組みを行ってきました。その一環として、GGS をオープンアクセス化しました。それに伴い雑誌のレベル向上にもつながると期待されます。また、会員からの投稿を奨励する目的で、日本遺伝学会会員が GGS に論文を投稿する際の掲載費には割引価格が設定されています（非会員 ¥150,000、普通会员 ¥100,000、シニア会員／教育会員 ¥50,000）。このことは、日本遺伝学会会員であることの大きなメリットの一つでもありと考えておりますが、どの程度認知されているのか以下の質問をさせていただきました。

Q. 学会誌 (GGS) がオープンアクセスとなりました。また会員は学会誌への論文掲載費が非会員よりも割引されます。このことについてご存知でしたか？



アンケート結果より、GGS のオープンアクセス化に関しては日本遺伝学会会員においてさえ認知度が 60%以下であることから、周知が不十分であると認識いたしました。また、「会員の GGS への掲載費割」についても認知度が 35.3%と低いことがわかりました。こちらも、さらなる周知が必要と思われます。これらについてはさらなる周知に努めたいと思います。

GGS に関する自由記述欄には、合計 36 件のご意見をいただきました。主だったご意見のまとめをお示しします。

- ・「オープンアクセス化をしたことは良いと思う」(複数意見)
- ・「GGS は IF に比べると質の高い論文が多く掲載されていると感じる」(複数意見)
- ・「日本固有種の研究の公開の場としても有効と思う」
- ・掲載料に関しては、「高いと思う」「安いと思う」の両意見。
- ・「潜在的に受け入れ分野は広いはずだが、掲載論文の分野に偏りがみられる」
- ・「editor は多いが、“本気で” GGS を良くしようとは思っていないのでは」との厳しいご意見もありました。

要望として以下の回答も頂きました。

- ・ IF・被引用回数を上げたい（掲載論文の質の高さに見合っていない）
- ・ GGS の独自性・採用ポリシーの明確化、他の論文との独自性の明確（IF による序列化に対抗すべく独自性を追求してほしい）
- ・ ホームページの更新頻度、デザインを改善して欲しい
- ・ 総説を増やすことで IF を上げることができないのではないか？

### 今後の検討課題

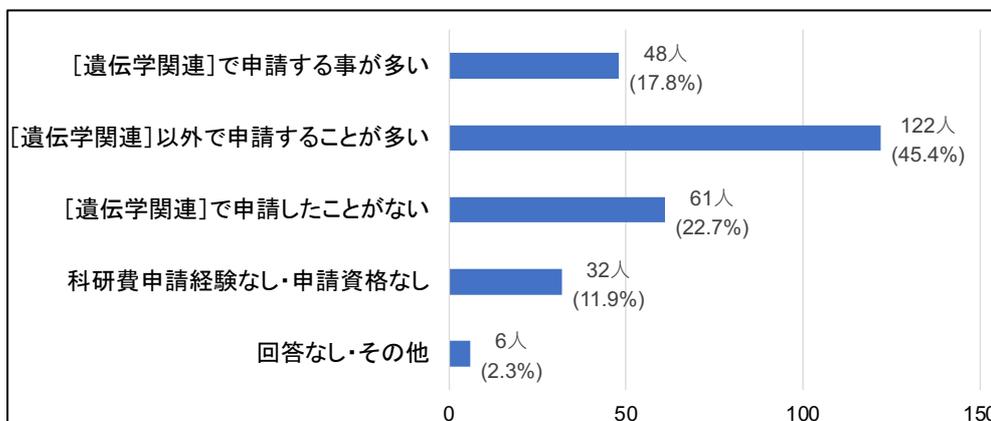
オープンアクセス化・会員掲載費割引制度に関しては周知が行き届いていないということがわかりました。この件も含め、HP やメールニュースでのお知らせあるいは大会での宣伝など、会員の皆様に対して有用な情報の発信方法を改善したいと思います。

また、IF が全てではありませんが、IF が高くなれば雑誌の評価が上がるのも事実ですので、総説論文の掲載を増やすことも今後の検討課題とさせていただきます。

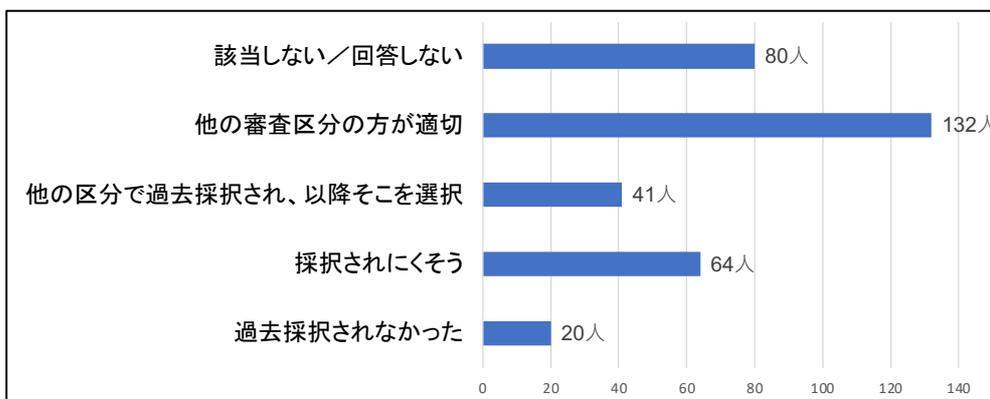
### ○科研費の審査区分に関する質問

現在、学術振興会では科研費の「遺伝学関連」小区分についての議論が進んでおり、遺伝学会員のみなさんにこの内容を周知するために、今回のアンケートに設問を加えさせていただきました。こちらのアンケート結果に関しては、2022 年 4 月 27 日付日本遺伝学会からのお知らせメール“【GSJ】科研費「遺伝学関連」小区分のアンケート結果とその背景について”にて国立遺伝学研究所 平田たつみ先生（学術センターシステム研究員（生物系科学専門班）兼務）よりご報告いただきましたので、詳しくはそちらをご確認いただければと思いますが、ここでは概要を報告させていただきます。

### Q. 科研費の申請の際、主に選択する審査区分についてお伺いします

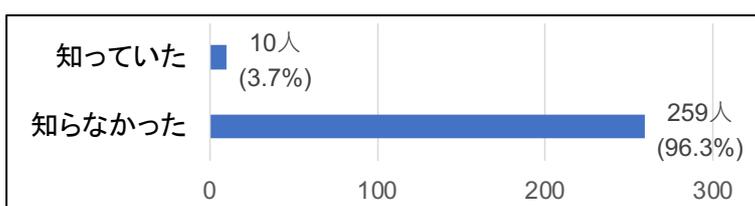


Q. 「**遺伝学関連**」を選択しない理由をお応えください（複数回答可）



アンケート結果によると、科研費申請にあたっては「**遺伝学関連**」以外で申請することが多い」という回答が最も多く、「**遺伝学関連**」で申請したことがないと合わせると70%近くに及ぶことがわかりました。理由としては、「他の審査区分のほうが適切」が最も多い結果でした。遺伝学は生命系学問の基盤的位置づけにあると考えられますが、科研費の生物科学分野における中区分「分子から細胞」「細胞から個体」「個体から集団」の中で「**遺伝学関連**」は「個体から集団」に含まれているため、例えば個体や集団を対象として研究をしても解析の中心が分子や細胞である場合には選択しづらい、という状況が多いのではないかと考えられます。

Q. 「**遺伝学関連**」への応募数が少ないため、**基盤研究（B）**では「**進化生物学関連**」との合同審査が検討されていることをご存知ですか？



本アンケートに科研費に関する質問を付け加えるきっかけでもありますが、科研費申請における「**遺伝学関連**」と「**進化生物学関連**」の合同審査の検討については、大半の方がご存じなかったということが明確となりました。自由記述欄へのコメントとして、「**遺伝学関連**」の審査区分は残して欲しい、という意見が複数ありました。合同審査が実現されても「**遺伝学関連**」の小区分自体はそのまま残るとのことですので、消滅するというわけではないことここでもお知らせしておきます。科研費に関連する議論・改定は今後も進められていくことになると思われますので、会員の皆様にも随時情報をお知らせいたします。

以下に、科研費〔遺伝学関連〕に関して、自由記述欄（回答数 43 件）へいただいた主だったご意見のまとめをお示しします。

- ・「〔遺伝学関連〕は残して欲しい」（複数意見）
- ・「よくわかっている人に審査してもらいたい、分子遺伝学に近い研究だが「分子生物学関連」とは異なる点も多く、〔遺伝学関連〕が申請内容にフィットする」
- ・「〔遺伝学関連〕がカバーする範囲の認識が個々人でばらばらで、自身の研究にフィットしているのか不明」（カバーする範囲が広すぎるといふ人もいれば、狭いと判断する意見もある）
- ・「中区分では個体から集団のカテゴリー」（分子関連の研究は選択しにくい）
- ・「採択件数が少ないから応募を敬遠する」
- ・「語感としてクラシカルな遺伝学を連想し、分子生物学的な研究では当てはまらない印象」
- ・「実質上全く異なる分野が同じ区分で審査されるのは非合理的」（例えば分子遺伝・メカニズムと集団遺伝・進化は違う区分であり、互いの分野の内容を正確に評価するのは難しいのでは）
- ・「採用に偏りがある用を感じる」（染色体、進化、分子レベルの研究に偏っている。若手やそれ以外の分野〔シグナル伝達、植物・作物関連、類似研究のないマイナーな研究テーマ〕は採択されにくそう、審査員が少ない・偏っている）
- ・「ゲノムを扱う多く分野（医学を含む）が応募しているイメージがあるが、そうすると古典的な遺伝学分野の研究が太刀打ちできない」

要望として以下の回答も頂きました。

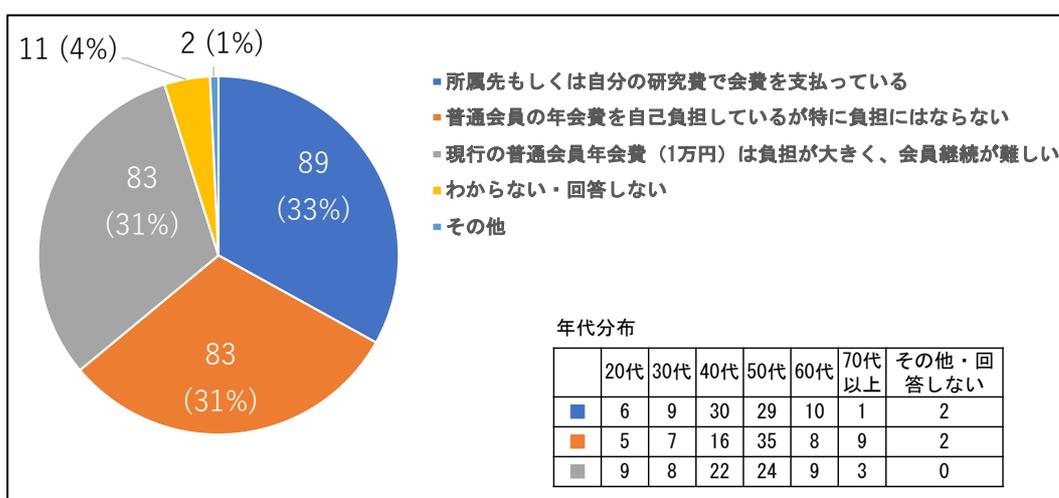
- ・所属学会と科研費の採択の関係が実際どうなっているのか知りたい（科研費向けのセミナーに参加しても、この点は触れられない）
- ・過去の審査員から今後採択されうるテーマ・分野について率直な意見が聞ければ応募を検討したい。
- ・遺伝学は分子から集団まで幅広いので、全ての生物学関連の小区分に遺伝学を入れてほしい。

遺伝学会としての対応は難しいことが多いですが、〔遺伝学関連〕への応募を学会として呼びかけるべき（他学会では呼びかけている）、というご意見もありました。〔遺伝学関連〕小区分がなくなるわけではありませんが、申請応募数が多ければその分配慮も及ぶとも思われますので、学会としての呼びかけも一つの案として検討課題と捉えさせていただきます。

## ○若手研究者の会費減免措置に関する質問

学位取得後間もない若手研究者は、任期付きの不安定な身分であったり、経済的に余裕がない状況に置かれていることが多いと思われます。一方で、多くの研究者は自身の研究成果を広く公表するために複数の学会に所属していると考えられます。特に若手研究者にとっては、次のポジションへの応募・キャリアのステップアップのために、複数の学会の年会で積極的に発表することは重要なことではありますが、年会費を自己負担しているのであれば多くの学会に同時に所属することは難しい場合もあるかと思えます。日本遺伝学会では、若い方々に会員になってもらいこれからの本学会を支えていただきたいということで、収入がないもしくは少ないと考えられる学生会員の会費減免措置を導入いたしました。しかし、学生の身分を終了し研究者となった若手会員も経済的に十分恵まれているとも言えない場合もあることから、若手会員の支援を目的として年会費の減免措置に関しての議論を進めております。そこで、日本遺伝学会に所属する若手研究者の現状の理解と減免措置に対する会員の皆様のご意見を伺いたく質問を設定いたしました。

Q. 身分の不安定な若手研究者にとって、年会費が大きな負担になる場合があります。40歳未満の non-PI の方はご自身のこととして、学生会員の方は将来のご自身のことを想定して、PI もしくは 40 歳以上の方は若手研究者の立場を踏まえて（あるいはご自身が若手研究者だったときのことを踏まえて）ご回答ください。



年会費の支出状況に関して、所属先・研究費で年会費を支払っている／自身で支出しているが負担ではない／自身で支出しており会員維持が難しい、それぞれほぼ同数でした。各世代ごとの回答内訳を図右下に示してあります。

若手会員の年会費に関して、自由記述欄（回答数 47 件）へいただいた主だったご意見のまとめをお示しします。

- ・「1万円は高いと思う」「若手は安くしたほうが良い」（複数意見）
- ・「参加学会を整理しようとする」と年会費の額が重要になる」
- ・「若手枠で安くしても、その後普通会员の額になった時に退会するのでは？」
- ・「安くして会員数が増えるか疑問に思う」
- ・「高いとは思わない」
- ・「そもそも年会費は所属先・PIが負担すべき」（複数意見）
- ・「年齢ではなく、不安定な身分かどうかで判断すべき」「PIと非PIで分ける」（複数意見）
- ・「科研費のある人とない人で分けたらどうか？」「科研費不採択者への支援制度があると良い」

その他に、寄付を募る、会費の割引ではなくクーポンの発行（論文掲載費に使える）、などのアイデアも頂きました。

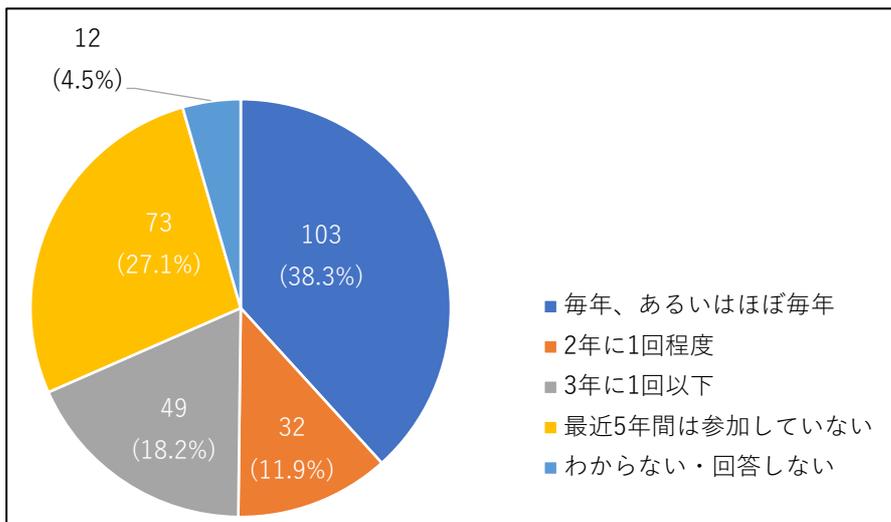
全般として、若手会員の年会費は減額しても良いという意見が多く見られました（5,000円程度、という案が多かった）。

皆様からのご意見を拝読し、ただ単に若手会員の年会費を割り引く、というのではなく、「大会で発表すること」など、学会を盛り上げることにつながるような条件をつけた上での若手支援策も検討する価値があるのではないかと思います。若手支援は重要なことだと受け止めておりますので、しっかりと議論した上でより良い形の方針を定めたいと考えております。

### ○日本遺伝学会大会に関する質問

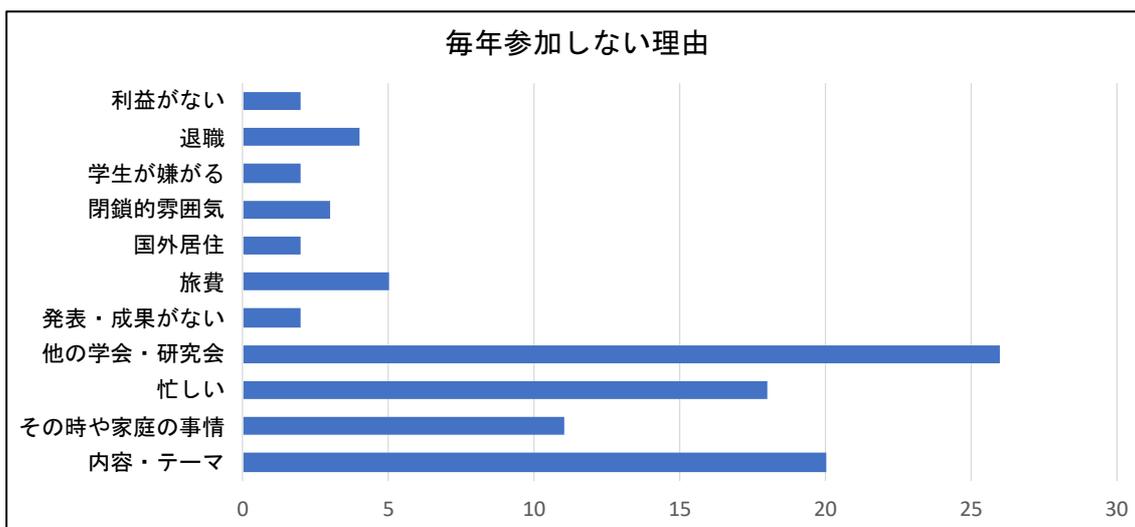
日本遺伝学会大会をより魅力的なものにするために、これまでもいろいろなことに取り組んでまいりました。これまで以上に、更に会員の皆様にとってより良い学会となるよう、学会の一番大きなイベントの一つである大会運営に関する質問をさせていただきました。

Q. 大会にはどの程度の頻度で参加していますか？



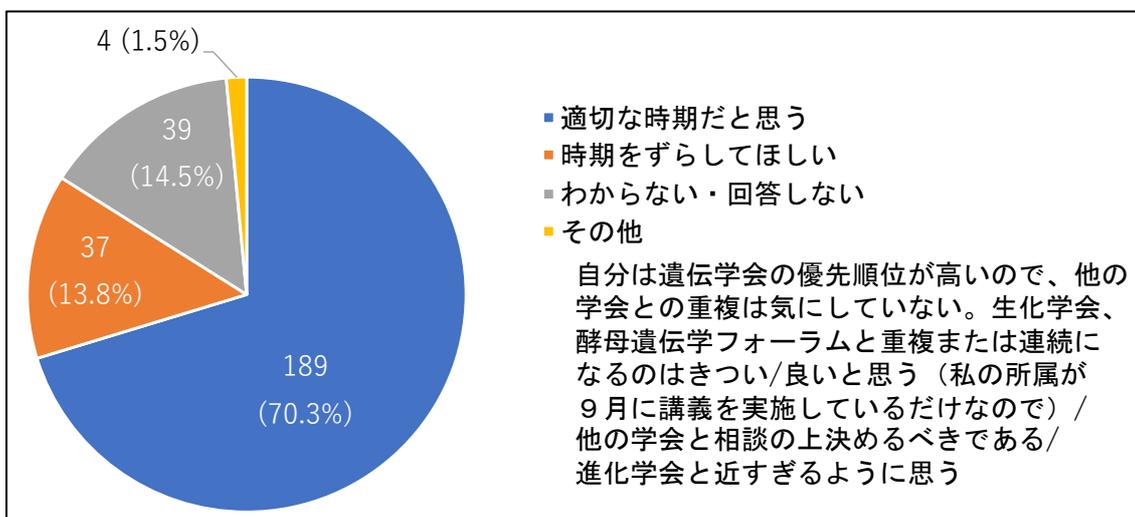
Q. 毎年参加しない場合は理由を教えてください（自由記述）

99件いただいた内容を大まかに分類しました。



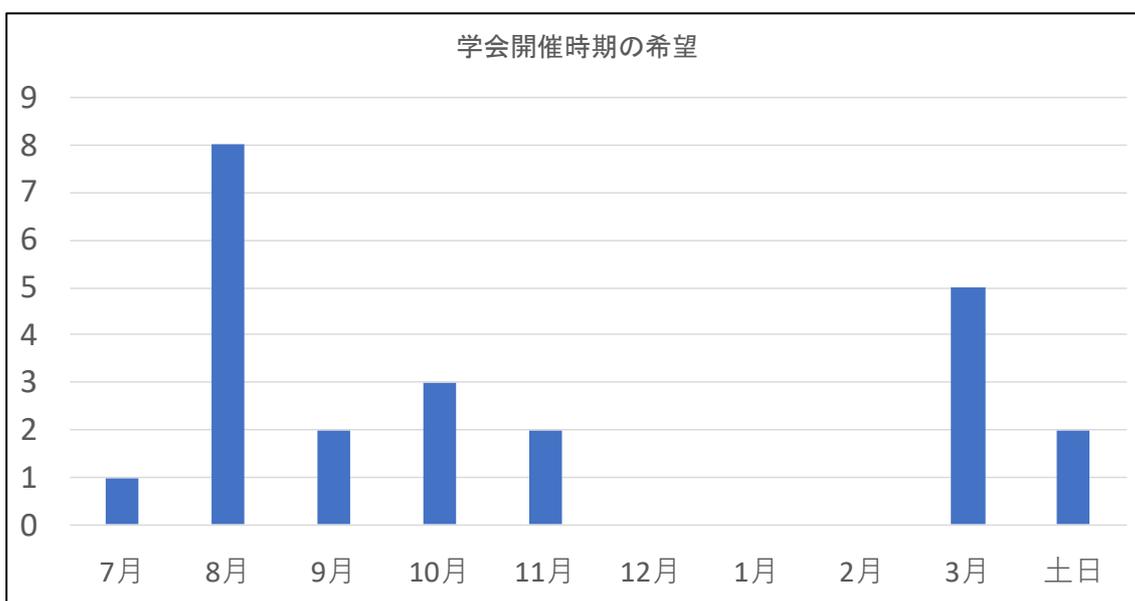
「毎年、あるいはほぼ毎年」「2年に1回程度」を合わせると約半数となりました。参加しない理由として、他の学会・研究会とかぶるという理由が一番多く、具体的な学会名として進化学会・動物学会が挙げられていました。また、自分の研究テーマと違う、専門的すぎる、など内容が合わないという意見も見受けられました。遺伝学がカバーする領域は生命科学分野のかなりの部分に及ぶと考えられますが、一方で学会の規模が比較的小さいため自分の研究と関連する発表が殆ど無いという場合もあるようです。

Q. 大会開催の時期（9月中旬頃）についてどう思われますか？



Q. 時期をずらした方が良い場合、適切な時期とその理由を教えてください（自由記述） 34件の回答

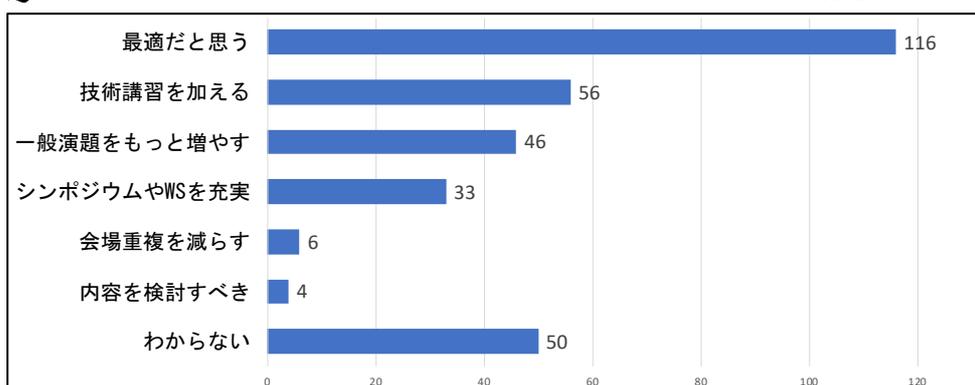
ずらすとした場合の“希望開催時期”を集計してみました。



大会開催時期については、7割の方が9月中旬頃が適切と回答していますので、現状で良いと思われませんが、もしずらすとしたらという前提では8月の希望が最多でした。理由としては、「9月は関連学会が多い」という理由が多く挙げられていました。また大学の授業が始まるタイミングで参加しづらい、との意見もありました。科研費の申請締め切りとの関連で、8月までに or 10月以降を希

望、との意見も複数ありました。もしずらすとすれば8月末~9月上旬が候補と考えられますが、他の学会との重なりも含め検討しなければならない事項が多いため、開催地の事情等も考慮しつつ当面は特別な理由がなければ9月中旬を基準として大会日程の調整を進めさせていただくことになると思います。

#### Q. 大会のプログラム構成についてどう思われますか？（複数回答可）



プログラムは現状で良いという意見が最も多く挙がっていました。次いで、「技術講習や知識に関する講習のようなものを入れて欲しい」という意見が多く、ワークショップ枠の一つを技術講習等にすることは検討する価値があると思われる。

大会に関して、自由記述欄（回答数 42 件）へいただいた主だったご意見のまとめをお示しします。

- ・「レベルが高く、参加者の熱意もあると感じる」
- ・「夜の交流会は良い。いろいろな人と知り合えた」
- ・「小さい学会らしさを活かして欲しい（会員同士の親睦が深まり、気軽に質問ができ、内容の濃い議論ができる雰囲気）」
- ・「他の学会との合同大会を開催するのが良いと思う」（複数意見）
- ・「口頭発表中心の遺伝学会の良さを維持して欲しい」（複数意見）
- ・「遺伝学会でなければ得られない情報がある、そういう大会を検討すべき」
- ・「他の学会との差異や遺伝学会らしさをどう出すかが重要」
- ・「自分の関連分野の発表が少ない」
- ・「発表の重なり（特にシンポジウム・ワークショップ）をなるべくなくして欲しい」（複数意見）
- ・「高校生や一般の人が参加しやすいような大会にしたほうが良いと思う」

その他、大会のアナウンスが少ない、Best paper 賞の選定基準がわからない、といった意見もありました。会員の皆様への情報発信に関しては検討の必要があ

と感じました。Best paper 賞の基準は公表していますが、会場に掲示することも検討させていただきたいと思います。

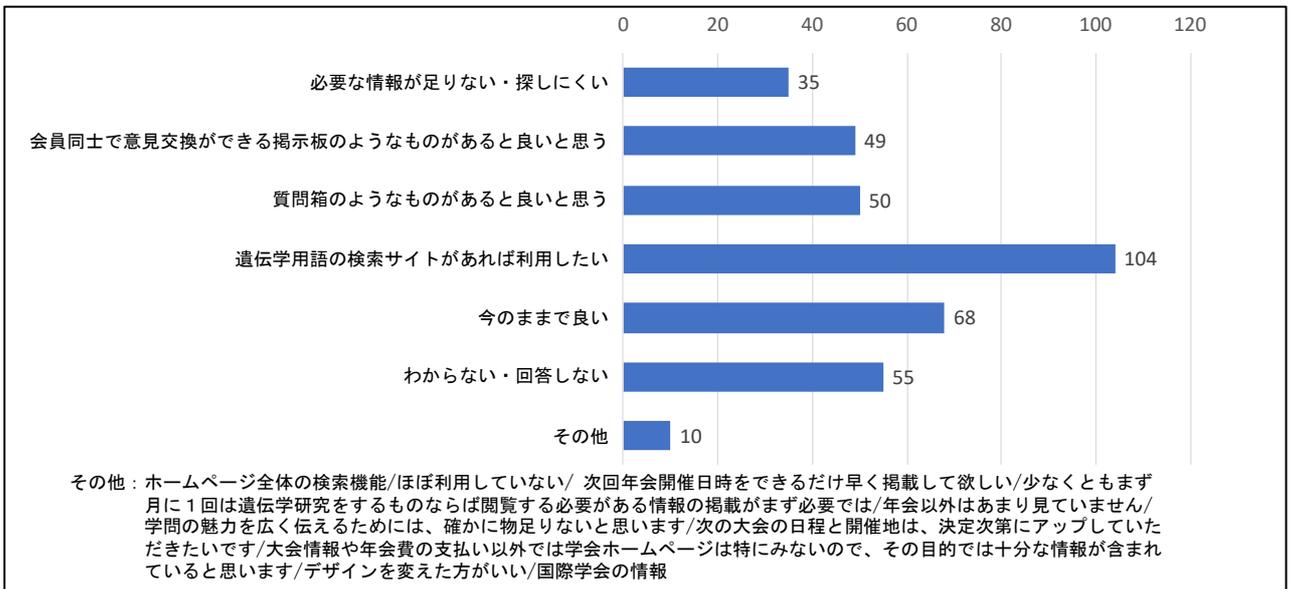
技術講習会等を希望する声も多く頂きました。企業を巻き込んだランチョンセミナーという形も検討する価値があると感じました。

大会に関して、概ね現在の開催形態をポジティブに受け入れていただいていると受け止めましたが、発表の重複問題、技術講習会、合同大会、など重要な事項と考えますので、これらの点については議論を進める方向で検討させていただきたいと思います。

### ○学会からの情報発信に関する質問

学会から会員の皆様への情報発信は、現在 GSJ コミュニケーションズ、メールによるお知らせ、学会 HP、を通じて行っております。学会 HP はより使いやすいように整備を行ってまいりましたが、一方で twitter や Facebook などの SNS は活用してきませんでした。今後の会員向け、一般向けの情報発信方法の検討材料として皆様からのご意見を募りたく質問をさせていただきました。

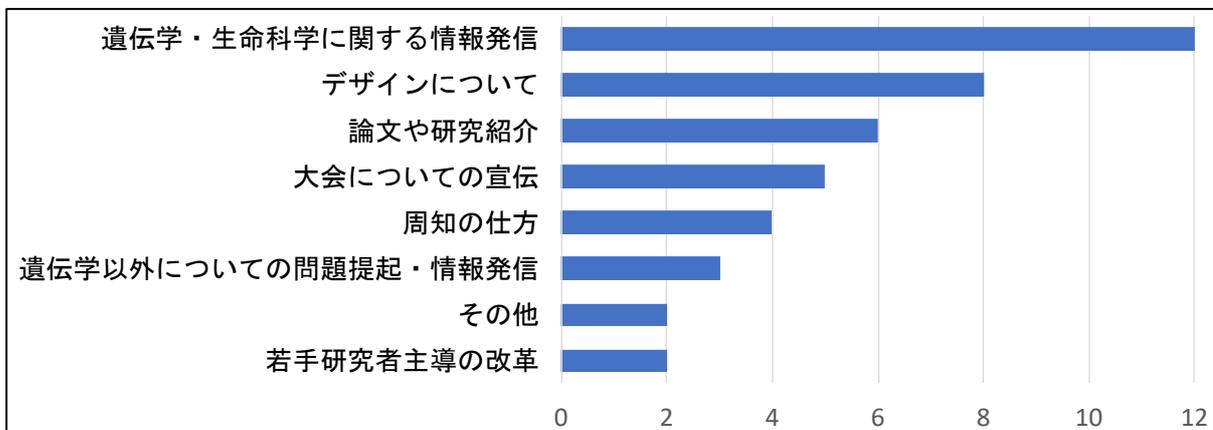
### Q. 学会 HP についてご意見ください（複数選択可）



「遺伝学用語の検索サイトがあれば利用したい」という意見が最も多く、それに次いで「今のままで良い」という結果でした。掲示板や質問箱など、会員同士の交流や情報交換の機会を高める機能を求める声も多く寄せられました。

Q. より魅力的な HP するにはどうしたらよいか、ご意見をお聞かせください  
(自由記述)

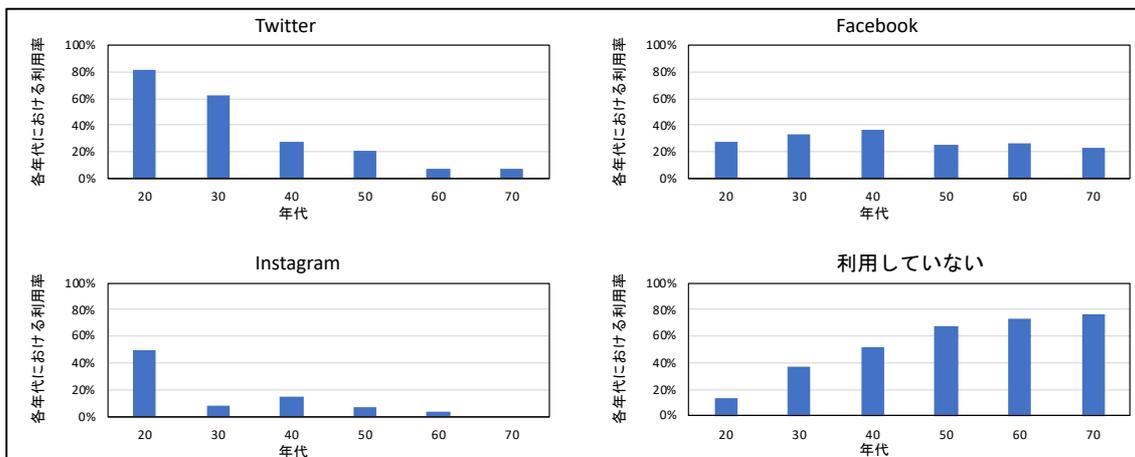
自由記述欄へ頂いた 40 件の意見を分類してみました。



「遺伝学・生命科学に関する情報」、「論文や研究の紹介」など、研究に関連する情報発信を求める声が多かったのに加え、研究者だけでなく一般の人や小中高生が見てもわかりやすいような情報を発信したり、質問箱のようなものを設けるとよいのでは、という意見が見受けられました。

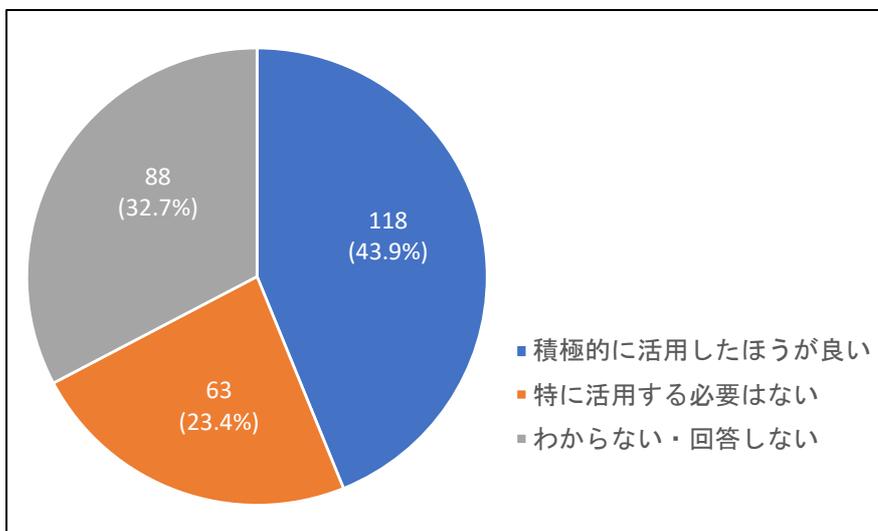
「必要最低限の情報を知るためには現状のままでいい」「シンプルで見やすい」という意見がある一方、「必要な情報が足りない・探しにくい」、といった回答も少なからず頂いており、「デザインが良くない」という意見も頂きました。また、「スマホからは閲覧しにくい」という声もあり、HP をより見やすく、必要な情報にアクセスしやすいデザインに改善する、など今後の検討課題とさせていただきたいと思います。そのうえで、ご要望が多かった新たなコンテンツ（遺伝学用語の検索、質問箱、掲示板）等など、実行可能な範囲での追加についても検討させていただきたいと思います。

Q. SNS を利用していますか？（複数回答可）



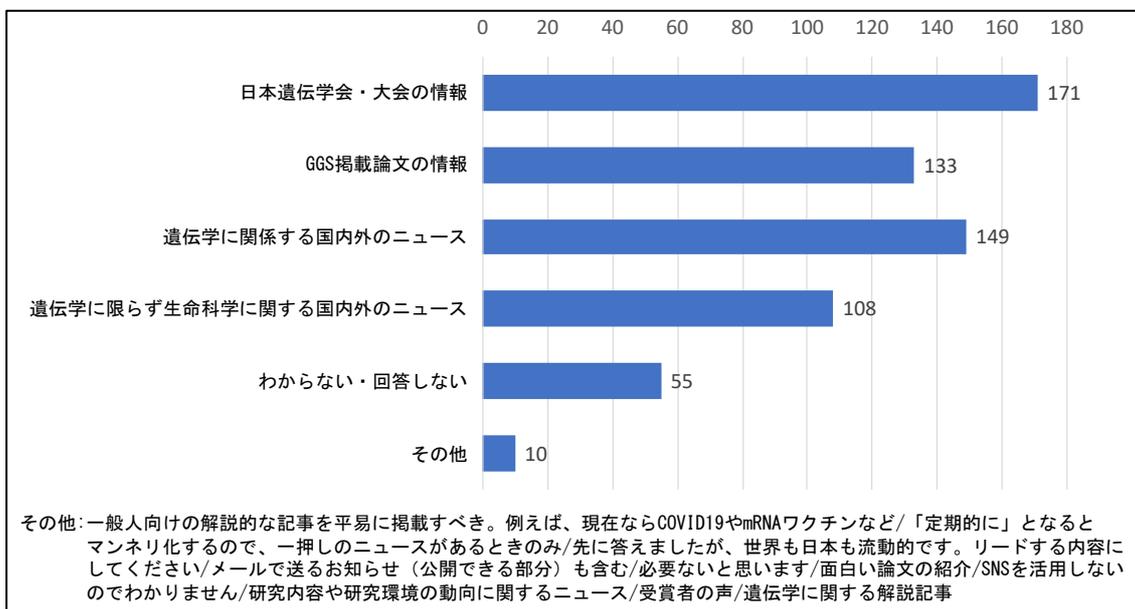
20代、30代は Twitter の利用率が高く、一方 Facebook は年代間に大きな差はなく、概ね 30%前後の利用率でした。全般的に、年代が上がるにつれて SNS を利用していない割合が高くなる傾向でした。

Q. 現時点で日本遺伝学会公式の SNS アカウントを開設していませんが、学会の SNS 利用についてどのように思われますか？



どの年代においても SNS を積極的に活用したほうが良いと思っている人が多くみられましたが、20代や30代の年代は特にその傾向が強いことがわかりました。

Q. SNS を活用する場合、どのような情報を発信したら良いと思いますか？（複数選択可）



「日本遺伝学会・大会の情報」が最も多く、次いで「遺伝学に関するニュース」、  
「GGS 掲載論文の情報」となりました。

SNS 活用に関して、自由記述欄（回答数 42 件）へいただいた主だったご意見の  
まとめをお示しします。

全般として、「SNS を活用したほうがいい」という意見が多かったですが、「コ  
メントに対応するのは大変なので情報発信で使うといい」「頻度、内容、コメン  
トへの対応、炎上対策などについては十分考える必要がある」というアドバイス  
も頂きました。

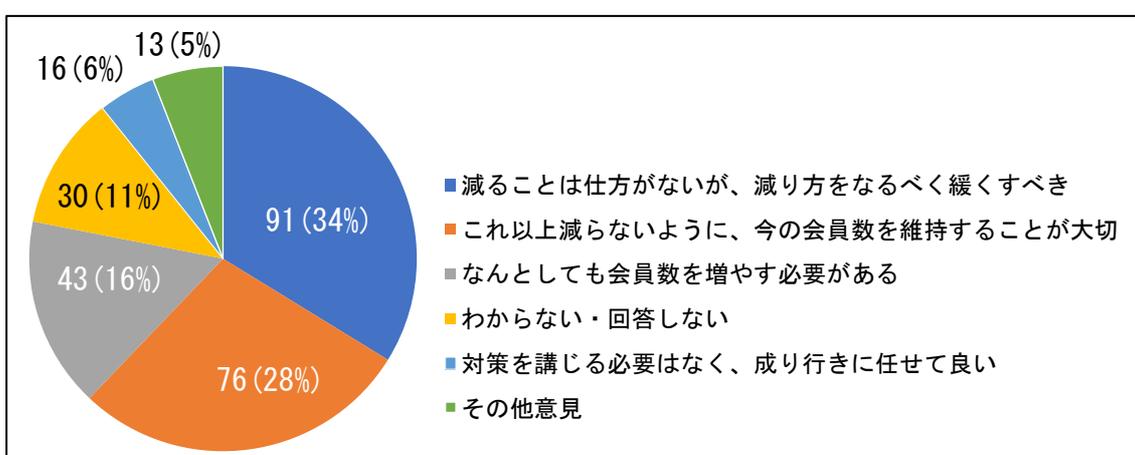
一方で、「ボランティアで行うには負担が多い」「SNS は興味を持つ人しかアク  
セスしないし、情報過多になるので、あまり力を入れる必要はない」という意見  
もありました。

もし SNS を活用するのであれば、トラブル（炎上など）が起こらないように方  
針をきちんと定める必要があると思われます。活用するかどうかも含め、しっか  
りと検討したいと思います。

## ○日本遺伝学会の会員数減少に関する質問

日本遺伝学会幹事会では、会員数の減少は大きな問題と捉え、学会員数の減少をなんとか食い止めるために様々な対策を講じてきました。それでも年々会員数は減少の一途をたどっているのが現状です。今後の対策や、あるいは方針を検討するにあたり、会員の皆様のご意見をしっかりと汲み取りたいと思い、また何かアイデアをいただけたらと考え、以下の質問をさせていただきました。

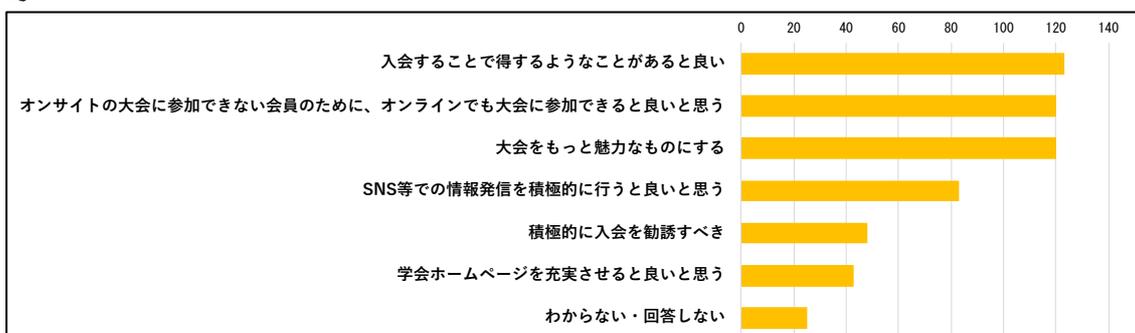
Q. 年々学会員数が減少し続けています。このことについてどのように思われますか？



「減り方をなるべくゆるくすべき」「今の会員数を維持することが大切」「なんとしても増やす必要がある」を合わせて、何らかの対策を講じるべきと考えている方が大多数（78%）を占めていました。

現状を踏まえると、今の会員数を維持するのもなかなか難しい状況と考えますが、何もせずにいるとおそらく急激に減少することになると思われます。幹事会としては、会員を増やす努力を今後も継続していきたいと思えます。そのための参考とさせていただくべく、続けて以下の質問をさせていただきました。

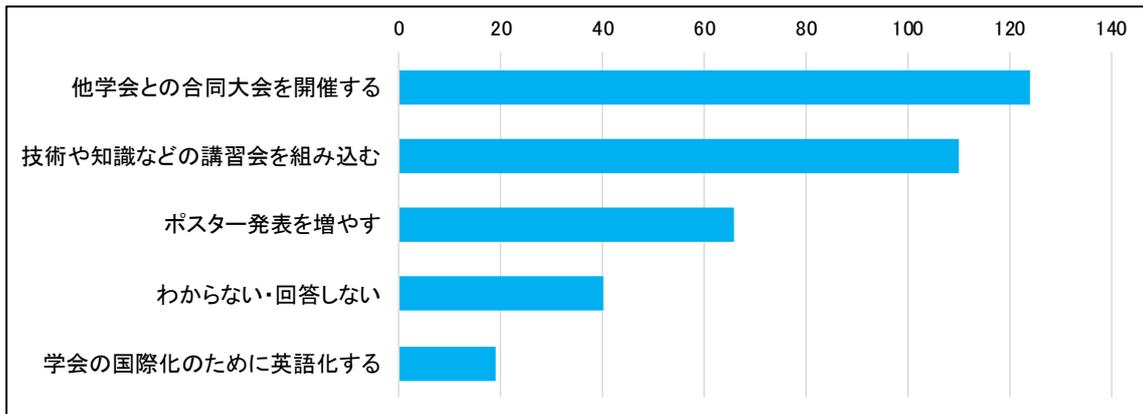
Q. どのような対策を講じるべきだと思いますか？（複数選択可）



「入会することで得するようなことがあると良い」「大会をハイブリッドにする」

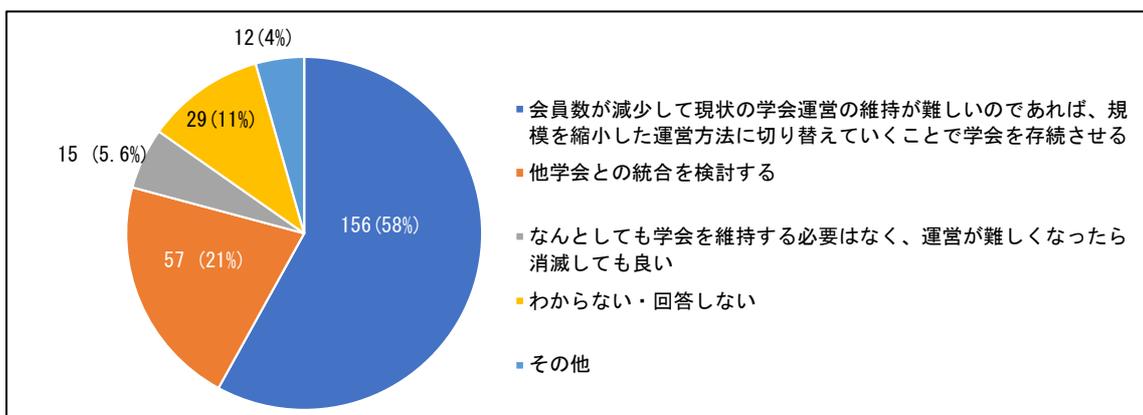
「大会をもっと魅力的に」という意見を多く頂きました。「その他」として、他の学会との情報共有、中学・高校の理科の先生の勧誘、などのご意見もいただきました。

Q. どのような大会だとより魅力的になるとお考えですか？（複数選択可）



「他学会との合同大会」の要望が多く挙がりました。また、先の「大会に関する質問」で頂いた意見と同じく、「技術や知識などの講習会」を求めるご意見も多くいただきました。「その他」の意見として、若手を配慮した大会、シンポジウムで取り上げる分野を広く、などがありました。また託児所の設置を、というご意見もありましたが、これに関しては育児等が理由で参加が難しい会員のための助成制度を設けておりますが、まだ周知が行き届いていないのかもしれない、もう少しわかりやすく、利用しやすい形で案内できるように努めたいと思います。

Q. 日本国内の人口動態や大学院進学状況を考えると、どのように対策を講じたとしても会員数の減少は避けられないことが懸念されます。そのことについてどのようにお考えでしょうか？



会員数が減少すると考えた場合の学会運営の方針についての質問では、「規模を縮小した運営に切り替えて」というご意見が最も多く、「他学会との統合を検討

する」も少なからず挙がりました。多くの方が日本遺伝学会の存続を望んでくださっていると受け止め、今後の状況に即して最適な学会運営に努めていきたいと思えます。

会員数減少に関して、自由記述欄（回答数 40 件）へいただいた主だつたご意見のまとめをお示しします。

会員数があまりにも減少するようなら、他学会との統合も検討すべき、という意見が複数ありましたが、遺伝学会はぜひ存続して欲しい、という意見はそれ以上に頂きました。今はまだ統廃合を検討する段階ではないと認識しておりますが、会員数が減少していることは間違いなく、特に若手普通会员の減少が顕著ですので、若手支援を通して会員数の維持に努めたいというのが幹事会としての考えです。頂いたご意見の中にも、「若手が参加しやすいように工夫をすべき」「学生会員から普通会员に定着させることが重要」といったものも複数頂いております。

また、「学会の間口を広げ、関連分野の人が参加しやすいように」「他学会との連携を深めるべき」という意見もありました。他学会との合同大会を開催するというのもこれらのご意見に答える一つの方法かもしれません。アンケートの回答にも合同大会の開催を勧めるご意見が複数ありました。実施するのはそう簡単ではありませんが、中・長期的に検討する課題とさせていただきたいと思えます。

「数年に一度の国際学会との共催は良いと思う」、というご提案もありました。一方で、「大会を完全に英語化するのは若手にとって敷居を上げることになると思われる」というご意見も複数あり、学会の国際連携・国際化は重要な課題ではあるものの、大会の英語化は少し慎重に議論する必要があると思えます。

「中学校、高等学校の先生を積極的に勧誘すると良いと思う」というご意見もありました。「高校、大学において遺伝学を系統的に教えなくなった」というご意見も頂いており、このことを踏まえると、中学・高校の先生が遺伝学会に関わっていただけるような流れができると遺伝学の普及にもつながるものと思えます。現在遺伝学会では、中学・高等学校等へのオンライン講師派遣事業を行っております。この取り組みが、中学・高等学校の先生や中高生の学会参加のきっかけとなればと考えております。会員の皆様も、ぜひこの取り組みにご賛同くださり、ご協力いただければと思えます。ぜひ一度、日本遺伝学会 HP のこちらのページをご覧ください (<https://gsj3.org/dispatch/>)。

○最後に、日本遺伝学会に対してのご意見・ご要望等の自由記述欄にご回答頂きました。こちらには、60件のご意見を頂きました。一部ですが主だったご意見のまとめをお示しします。

遺伝学会はフランクで自由な雰囲気が良い（複数意見）

会員数の減少は仕方ないので、会員数にとられる必要はなく、小さい学会なりの良さ・独自性を出せば良いと思う（複数意見）

伝統ある学会なので存続して欲しい（複数意見）

→日本遺伝学会に対してよい印象を持ってくださっているご意見を多数いただき、ありがたく思っております。一方で、いくつか厳しいご意見もたまわりました。すべての方に等しくご満足いただく学会運営は難しいですが、会員の皆様あつての学会ですので、すべてのお言葉を真摯に受け止めて今後の参考にさせていただきたいと思えます。

#### 頂いたアイデア

若手、学生に運営に関わってもらうのが良いと思う（複数意見）

→これに関しては、春の分科会をきっかけに、新たな試みをスタートしました。次大会で企画がありますので、ぜひご参加ください。

著名な研究者に口演を依頼して大会参加者を増やすと良いと思う（複数意見）

→シンポジウム等ですで行っていますが、もっと充実させることも視野に入れて検討してみたいと思えます。

初参加の人は参加費無料にするのはどうでしょうか？

→初参加の人全員を無料にすることは難しいかもしれませんが、一定の条件を満たした場合（一般口演 or WS で発表する若手、など）など、検討してみたいと思えます。

異分野の新しい人を幹事にリクルートすることで新分野の開拓（取り込み）につなげてはどうか？

→遺伝学会員以外の方にいきなり幹事になっていただくのは難しいと思えますが、一度大会に参加していただいてから（WS の招待講演をしてもらうなど）、というやり方になるかと思えます。学会として強化したい（あるいは取り込みたい）分野を検討してリクルートする、ということと受け止めました。幹事の個人的なつながりでリクルートしてその後幹事になった現メンバーもおりますが、それを学会として進めるというやり方は学会の強化に繋がる方法かもしれません

ん。

中高生への講座等、遺伝学の普及に取り組むと良いと思う

→講師派遣・出前講義、といった取り組みをもっと充実させることで対応可能かもしれません。それには会員の皆様のご協力も必要になってきますので、よろしくお願いいたします。

教育会員の制度をもっと宣伝したほうが良いと思う

→講師派遣も含め中学・高校の先生とのさらなる連携・情報交換等が大切かもしれません。

会員の声を聞くシステム、情報発信の方法を検討すべき・(複数意見)

一般市民への啓蒙活動をもっと行ったほうが良いと思う。

→HPに関する質問でも、掲示板のようなものがあると良い、というご意見がありました。他にも、SNSの活用、HPの充実、などのご意見も頂いています。今後の検討課題とさせていただきます。

他学会との統廃合も考えるべきと思います(複数意見)

→遺伝学会の存続を望む声が多い一方で、将来的には他学会との統合も考えるべきというご意見も複数いただきました。すぐに統廃合を検討しなければならない状況ではありませんが、一つのご意見として受け止めさせていただきます。

GGG と他学会のジャーナルの統合を検討すべきと思う(複数意見)

→現状としては、GGG 単独で維持する方針で進めていくつもりです。GGG の品質を高め、よりレベルの高い雑誌にしたいと考えております。ただ、他の学会誌と連携できるようなことがあれば、検討する価値はあると考えています。

大会開催を、各地を順番に巡るのではなく、その時に学会として力を入れたい分野の研究者をコーディネーターとして選んではどうでしょうか？

→難しいところもある方法ですが、面白いアイデアだと思いました。こういう視点を元に合同大会を検討するというのもあり得るかもしれません。

国際化を進めて会員数を確保するのが良いと思う。

英語化すると大会に参加しづらくなるかもしれない。

→関連事項として、英語版の HP の整備を行いました。また、国際遺伝学会との関わり方について現在議論を進めているところです。この点については進展が

ありましたらご報告させていただきたいと思います。大会の英語化に関しては、学生・若手が深く議論できる方が良い（英語だとハードルが高い）、というご意見もあり、当面は現状の開催方法（一部英語）になると思います。

その他にも多数のご意見を頂きました。自由記述欄への回答は想定していたよりも遥かに多く、それだけ会員の皆様が日本遺伝学会をなんとか良くしたいと  
思ってくださっている表れだと感じました。厳しいお言葉もありましたが、それ  
らも貴重なご意見として受け止めております。多くの方からご回答いただきま  
したので、当然ながら多くの内容で相反するご意見も頂いております。すべて  
のお言葉に沿うような学会運営をすることはできませんが、頂いたアンケート結  
果を最大限活用させて頂き、また各項目についてご提示いただいた様々なアイ  
ディアを参考にさせて頂き、日本遺伝学会が会員の皆様にとって居心地が良く  
所属する価値のある学会であり続けられるよう、運営していきたいと思いま  
す。そのためには皆様のご協力も不可欠ですので、今後ともどうぞよろしくお願  
いいたします。

日本遺伝学会 将来計画幹事